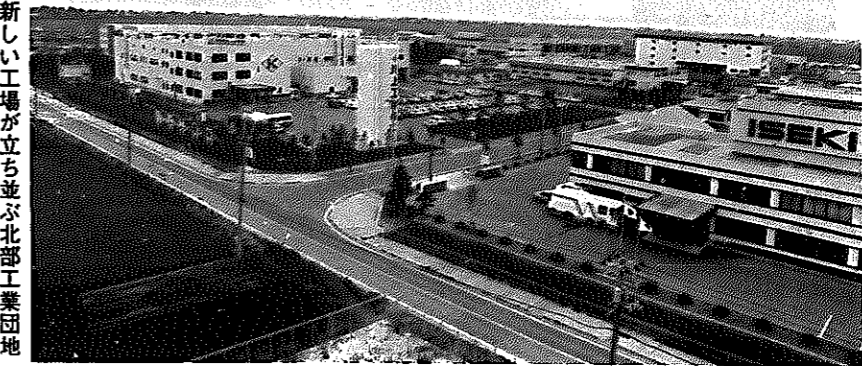


出荷額は前年比4.5%の増加



新しい工場が立ち並ぶ北部工業団地

皆さんのご協力をいただき、昨年十二月三十一日現在で実施した「工業統計調査」の白根市分の調査結果がまとまりました。その結果、白根市全体で事業所数は二百五十九事業所、従業者は五千六百三十九人、製造品出荷額は一千二百六億七千八百九十九万円でした。出荷額は、前年比四・五%の増加になります。

向にあります。

●事業所数

事業所数は、二百五十九事業所で、前年と比較すると二・六%（七事業所）の減少となっています。業種別では、金属製品が五十一事業所（構成比一九・七%）と最も多く、次いで飲料・食料品が三十六事業所（一三・九%）、電器機械器具が二十五事業所（九・七%）となっています。

●従業者数

従業者数は、五千六百三十九人で、前年と比較すると一・七%（九十三人）の増加です。業種別では、飲料・食料品が一千六百八十五人（構成比二九・九%）と最も多く、次いで電気機械器具八百二十人（一四・五%）、金属製品六百七十五人（一一・〇%）となっています。

従業者の規模別では、従業者数五十人以下の事業所数は二百四十事業所（構成比九二・七%）で、五十人以上の事業所は十九事業所（七・三%）となっています。前年との比較では、五十人以上は八事業所が減少し、五十人以上では一事業所の増加となっています。

事業所数は昭和五十六年に過去最高の二百九十九事業所がありました。それ以後は減少傾向にあります。

従業者の規模別では、五十人以上の事業所で二千二十七人の人が働き、五十人以上の事業所では、三千六百十二人の人が働いています。これを前年と比較すると、五十人以上の事業所は百四十五人減少（減少率六・七%）、五十人以上の事業所は二百三十八人の増加（増加率七・一%）となっています。昨年一年間で、従業者数五十人以上の事

単位：所、人、万円、（%）は前年比

	事業所数	従業者数	製造品出荷額
昭和55年	260 (△ 3.7)	4,783 (7.3)	6,438,982 (23.9)
56年	299 (15.0)	5,179 (8.3)	7,673,846 (19.2)
57年	284 (△ 5.0)	5,128 (△1.0)	8,021,382 (4.5)
58年	274 (△ 3.5)	5,342 (4.2)	8,749,835 (9.1)
59年	270 (△ 1.5)	5,381 (0.7)	9,704,878 (10.9)
60年	272 (0.7)	5,559 (3.3)	10,154,968 (4.6)
61年	273 (0.4)	5,716 (2.8)	10,435,400 (2.8)
62年	267 (△ 2.2)	5,542 (△3.0)	10,537,000 (1.0)
63年	266 (△ 0.4)	5,546 (0.1)	10,781,805 (2.3)
平成元年	259 (△ 2.6)	5,639 (1.7)	11,267,819 (4.5)

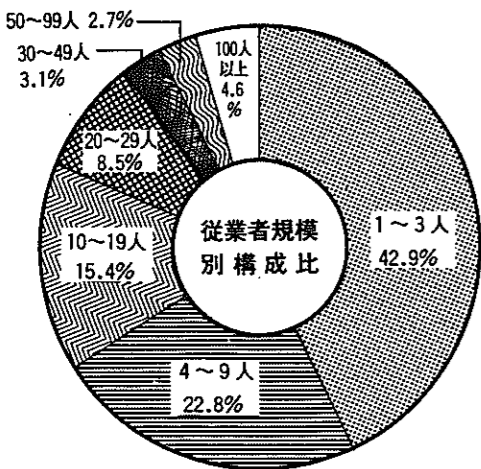
業所で働く人が大幅に増えたこととなります。

●製造品出荷額等

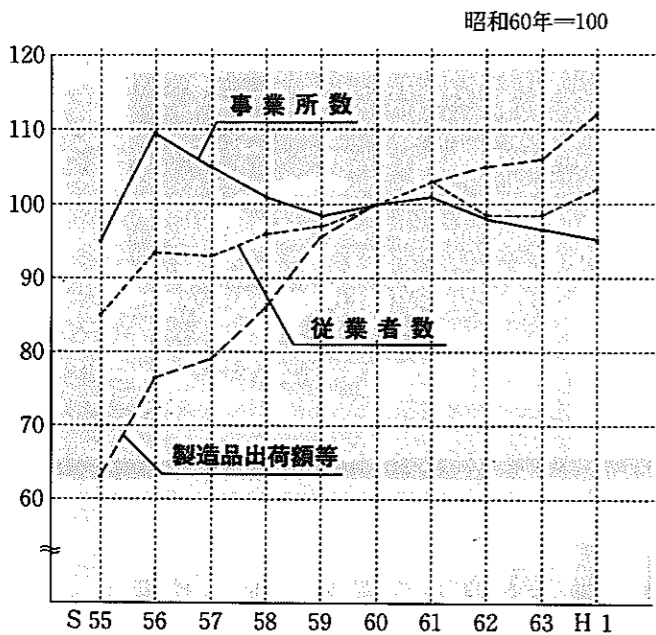
製造品出荷額等は、一千二百六億七千八百九十九万円、前年と比較すると四・五%（四十八億八千二百八十四万円）の増加となっています。十年前の昭和五十五年と比較すると、一・七倍となります。昭和四十九年に作成した和泉工業団地（十三社が操業）、昭和六十一年に作成した北部工業団地（二十二社が進出・十七社が操業）などの企業誘致により、順調な伸びを示しています。

従業者の規模別では、五十人以下の事業所の出荷額等は二百六十一億九千八百四十六万円（構成比三三・三%）、五十人以上では、八百六十四億七千九百七十三万円（七六・七%）です。前年との比較では、五十人以下では十二億八千七百二十一万円の減少（減少率四・七%）、五十人以上では六十一億四千七百三十五万円の増加（増加率七・七%）となっています。

この調査結果は、概要として掲載したもので、後日、国、県が公表する数値と異なることがあります。

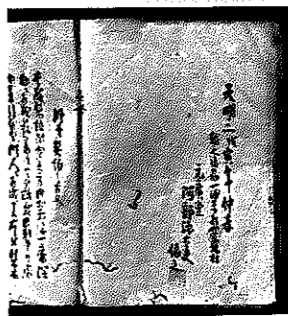


白根市工業の推移(指数)



市文化財に

「梨栄造育秘鑑」を指定



広報しろね二月一日号の「ふるさとかわら版」で紹介した、東萱場の阿部健作さんが所蔵している、天明二年（一七八二年）に書かれたナシの栽培技術書「梨栄造育秘鑑」が、市の有形文化財として六月二十八日に指定されました。市の文化財の指定は平成元年九月の「サルスベリの巨木」に続き五件目になります。

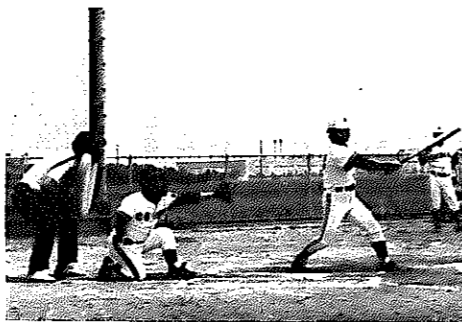
阿部家の家伝によれば、この「梨栄造育秘鑑」は、阿部源太夫が著したもので、四編からなっていて、全体を通じて土壌、木の性質、栽培技術、商品価値などについて詳細に記されています。果樹振興協会技術顧問の梁取作次さんは、古書として名高い宮崎安



「梨栄造育秘鑑」と阿部家の皆さん

貞の「農業全書」（一六九六年）や県農会で発行した「新潟県園芸要覧」（一九一一年）などの農業書と比較しても、ナシ栽培専門の単行本としては、この梨栄造育秘鑑が最古で、しかも唯一のものであることに違いない」としています。阿部家では、大切な書物として先祖代々から受け継がれてきたもの。健作さんの息子の源一郎さんは「源太夫は、たぶん阿部家の四代目に当たります。この時代にこれだけの解説書が書かれていたのは驚きです。また、文章の中に越後なまりがないことも不思議です」と話しています。

珍プレー続出 市議会親善野球大会



白根市議会チーム 残念ながら初戦敗退

新潟県市議会親善野球大会の下越地区予選会が、七月十七日カルチャーセンターグラウンドなど三会場で開催されました。

開会式後の準備運動は、音楽に合わせたエアロビクス。インストラクターと反対の動作をする人やなかなかリズムに乗れない人も。試合は各会場とも熱戦が展開され珍プレー、好プレーの続出でした。一方、やじ合戦の方は職業柄どちらとも一歩も引かず、引き分けに終わったようです。

地域生活センターに冷房設備を設置

市内の全地域生活センターに、冷房設備を設置しました。設置した場所は、市民の皆さんが最も多く利用する一階和室です。

地域生活センターで、夏の会議や集会となると、暑くてとても大変でしたが、今回冷房設備を設置したことで、そういった心配ももう無用。効率的に会議や集会ができます。各地域生活センターでは、皆さんのご利用をお待ちしています。

